

町の将来に向け、 議員のなり手不足問題を考える



芳賀町議会では、議会運営の充実と住民の皆さまの声をより一層反映させるために、議会活動の質的向上と議員の人材確保に努めています。

しかし、近年、議会議員のなり手不足が深刻な課題となっていることから、芳賀町議会では議員のなり手不足の解消に向けた検討を行っています。

議会だよりでは、今後も、その検討状況、取り組み状況などをお知らせしていくと考えています。

今号では、芳賀町議会における現状、なり手不足が引き起こす問題点、今なぜこのような検討が必要なのかなどをお知らせします。

芳賀町議会の現状

芳賀町議会は、昭和61年まで定数24人で構成されていましたが、人口減少や少子高齢化、候補者数の減少に伴い段階的に定数削減が行われ、平成27年に現在の定数14人となり、約30年間で10人の定数が削減されたことになります。

人口に対しての議員の数は、昭和58年は714人に一人だったのに対し、令和7年は1,090人に一人と悪化しています。

◆定数と人口の推移

年	定数	人口	議員一人当たり人口
S54	24	16,970人	707.1人
S58	24	17,128人	713.7人
S62	22	17,744人	806.5人
H3	22	17,964人	816.5人
H7	22	17,762人	807.4人
H11	20	17,508人	875.4人
H15	20	17,081人	854.1人

年	定数	人口	議員一人当たり人口
H19	16	16,914人	1,057.1人
H23	16	16,611人	1,038.2人
H27	14	15,972人	1,140.9人
R1	14	15,703人	1,121.6人
R5	14	15,517人	1,108.4人
R7	14	15,265人	1,090.4人

住民基本台帳（各年とも10月1日現在）

◆芳賀町議会議員の立候補者の推移

平成19年選挙	定数16人	立候補者19人
平成23年選挙	定数16人	立候補者15人（欠員1人）
平成27年選挙	定数14人	立候補者16人
令和1年選挙	定数14人	立候補者15人
令和5年選挙	定数14人	立候補者12人（欠員2人）



議員のなり手が不足すると・・・

◆住民の声が行政に伝わる機会が減少する

特に若年層や女性層を中心に、議員への関心や議会への参加意欲の低下が見受けられます。議会は、誰もが声を上げられる場であり、性別、世代等、多様な人材が必要不可欠です。なり手が不足すると、声に偏りが生まれ、広く住民の声が反映されにくくなる可能性があります。

◆議会機能が低下する

議会は予算や条例等、行政の施策をチェックする場です。なり手が不足すると、専門性の高い判断や多様な視点が欠落し、会議での議論が十分に深まらなくなってしまいます。その結果、住民のニーズを反映した政策が実現されない恐れがあると同時に、災害対応や緊急時の迅速性にも影響が及ぶ可能性があります。

◆議会運営の透明性と信頼性が欠如する

議会運営の透明性と信頼性を高めるためには、まちづくりに住民が参加しやすい環境づくりが欠かせません。なり手が不足していると、選挙や議会活動の意味そのものが分かりにくくなり、住民の自治への関心を失うことにも繋がり、地方自治の根幹が揺らいでしまいます。

なり手不足解消の検討は次世代のため



令和9年4月に次の選挙を控え、なり手不足を真剣に捉え、広く人材を育て、発掘し、参画を促す仕組みを考える必要があり、合わせて議会改革や合理化、約30年間見直されていない議員報酬等の検討も進めていかなければなりません。

議会では、なり手不足が引き起こす、将来の安定した町政運営、議会運営への影響を危惧し、「今」ではなく、次の世代、次の選挙に向けて、なり手をいかに増やすかに主眼を置いて検討をしています。